

衛生管理技術 解答

問題 1	3	(1) タオルやケープなど、布片類の消毒に適しているのは、次亜塩素酸ナトリウム。 (2) 目やその他の皮膚、粘膜に直接照射を受けると、有害である。 (4) 物体の表面だけで、その深部や陰の部分の消毒ができない。
問題 2	4	血液が付着しているもの、またはその疑いがあるものの消毒は ① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%~81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 3	3	(3) 次亜塩素酸ナトリウムは、結核菌に対して殺菌力がほとんどない。
問題 4	1	(1) 1日1回以上清掃し、壁、天井、床は常に清潔にする。
問題 5	2	(2) 煮沸消毒が規定されている。
問題 6	3	微生物を殺すことを、わが国では一般に殺菌という。 微生物の中でも、主として病原微生物を殺すかまたは除去して、 感染力をなくすことを消毒という。これに対して、病原微生物のみでなく、 あらゆる微生物を殺すかまたは除去して、 生きている微生物が存在しない状態にすることを 滅菌という。また、防腐とは、微生物を殺さないまでも、 さまざまな方法によってその発育や 作用を止めて、目的のものの腐敗を防ぐことをいう。
問題 7	2	(1) 紫外線消毒は、物体の表面だけに有効で、被消毒物件の 深部や陰の部分の消毒ができないので、不適當である。 (3) 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食するのでシザーズや カット用レーザーといった金属の消毒法は不適當である。 (4) コーム類の材質としては、セルロイドやプラスチックのほか、 骨、角、木、エポナイト、ベークライト、べっこうなどのものがある。 いずれも熱に対して弱いから、蒸気消毒は不適當である。
問題 8	3	(1) 逆性石けんや両性界面活性剤は、有機物(汚れ)があると効力が低下する。 (2) 一般に消毒薬の殺菌作用の速度は温度の上昇とともに速くなるし、 薬物が菌体内へ拡散し、侵入していく速度も速まる。 したがって、殺菌効力も増加する。 (4) 一般に、消毒薬は日光の直射しないところに、栓をかたくしめて保存する。 特に塩素系は、日光と熱により分解され、効力が弱くなるので、 原則として冷暗所(15℃以下)に置かなければならない。
問題 9	4	理容師法施行規則・美容師施行規則では、 「かみそり(頭髪を切断する用途に使用されるものを除く。) 及びかみそり以外の器具で血液が付着しているもの又はその疑いのあるもの。」に 適用する消毒法としてaとbのほかに次亜塩素酸ナトリウム水溶液による消毒法 (cで次亜塩素酸ナトリウムの濃度を0.01%から0.1%に変更した消毒法) が規定されている。
問題 10	1	紫外線消毒法は、カット用レーザー、シザーズ、クリッパー、 ふけとり、バイブレーター等の皮膚に接する部分、ムシ類、ブラシなどに使用する。 コただし、シェービング・ブラシなどのように、ぎっしりと毛が植えてあるものに は不適當である。また、タオルやケープも表面だけしか消毒できないので不適當である。 紫外線消毒器を使用する際には、 これから消毒しようとするものを積み重ねたり陰をつくらないことや、 油(脂)などの汚れは洗浄してから入れることなどの注意が必要である。
問題 11	4	bの消毒用エタノールは、結核菌に効果がある。 Cの逆性石けんは、結核菌に効果がない。 dのグルコン酸クロルヘキシジンには、芽胞や結核菌、ウイルスなどには効果がみられない。
問題 12	4	(1)は消毒法は理学的消毒法、化学的消毒法の2種類がある。理学的消毒法は、物理的 消毒法ともいい、熱、紫外線、放射線、ろ過などによって病原微生物を殺すか、除去する 方法である。これらのうちで、理容・美容に用いられるのは、蒸気消毒や煮沸消毒、あるいは 紫外線を利用する方法である。科学的消毒法とは薬品による消毒法のことで、用いる薬品 を消毒薬という。
問題 13	2	① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%~81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 14	1	① 消毒するものの性質に注意し、適当な消毒薬や消毒法を選ぶ。 ② 病原微生物の種類、抵抗性に応じた方法、時間などを選ぶこと。 ③ 希釈した消毒薬使用液は、定期的に作つくりなおすこと。 ④ 薬品は密閉し、冷暗所に保存すること。ラベルを汚さないようにして、他のものと よく区別しておくこと。 ⑤ 食品に使う容器を使用してはならない。

問題 15	1	① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%~81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 16	4	bは物体の表面だけで、その深部や陰の部分の消毒ができない。 Cはブラシやくし(コーム)の消毒に適している。(プラスチックの一部には劣化するものもある。)
問題 17	2	aはグルコン酸クロルヘキシジンが0.05%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法 dは逆性石けんが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法
問題 18	3	aはグルコン酸クロルヘキシジンが0.05%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法 bは煮沸消毒は、沸騰後2分間以上浸す方法
問題 19	4	理容所・美容所の開設者が衛生管理上、法的に講ずべき措置は上記の1~3とその他 都道府県が条例で定める衛生上必要な措置である。
問題 20	3	逆性石けんは栄養型の細菌に効果があり、結核菌、ウイルス、芽胞に効果なし
問題 21	4	1はあらゆる菌類に有効 2は波長は253.7nmのもの 3は紫外線は、目や皮膚に直接照射を、受けると有害である
問題 22	1	チフス菌やブドウ球菌、結核菌などの栄養型の細菌やウイルスは、 70℃以上の湿熱を数秒間作用させるとしめつする。
問題 23	2	金属製品は逆性石けん、両性界面活性剤、グルコン酸クロルヘキシジン、エタノールで拭く 紫外線、蒸気、煮沸が適する消毒法。塩素水では腐食します。
問題 24	1	2の金属製品.....逆性石けん・両性界面活性剤・ グルコン酸クロルヘキシジン・エタノールで拭く紫外線・蒸気・煮沸 3のプラスチック・ゴム製品.....逆性石けん・両性界面活性剤・ グルコン酸クロルヘキシジン・紫外線 4の下水溝.....オルトジクロルベンゼンを主剤とした乳剤 (殺虫効果も期待できる)を使用
問題 25	3	(3) 目やその他の皮膚、粘膜に直接照射を受けると、有害である。
問題 26	2	aは蒸気消毒は80℃を超える湿熱に10分間以上触れさせ、煮沸消毒は 沸騰後2分以上煮沸します。煮沸消毒は消毒時間が短いですが十分効果がある。 dはサビ止め効果と殺菌力も増加する。
問題 27	3	優れた消毒法の条件は ①消毒の効果が確実であること ②短時間に消毒されること ③方法が簡単であって、費用も多くかからないこと ④消毒する物件を損なわない方法であること ⑤いつでも、また、どこでも実行できる方法 ⑥消毒を行うさいに人畜に対して毒性が低いこと ⑦消毒した物件に悪臭を残さないこと ⑧必要であれば表面のみでなく、内部をも、消毒する 以上8項目である。
問題 28	4	1は日光に含まれている紫外線の殺菌力を利用する方法。 2は普通の石けんと併用すると沈殿を起こして、消毒力が低下する。 3は熱による消毒では、同一温度においては乾熱に比べ湿熱のほうが強く作用します。
問題 29	2	1は臭いの強さと殺菌力は関係なく、臭いの強いものは消毒後に臭いが残るおそれがある 3は濃度が濃くなると人やどうぶつに対して障害を与えることがある 4は有機物が混入すると殺菌力が低下するものもある
問題 30	1	2は消毒は美容師施行規則に定められている8種類の消毒法のうちから 適するものを選んで行う 3は希釈液は一度にたくさん作らず、1回に必要な量だけつくります 4は紫外線・煮沸・蒸気がある
問題 31	4	4は塩素系薬剤消毒は、漂白作用があり、毒性が少ないなどの長所がある反面、 比較的不安定で、塩素自身の刺激臭が残り、結核菌に対して殺菌力はほとんどない
問題 32	1	① 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ② エタノールが76.9%~81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。
問題 33	3	美容師法では、ハサミ、くしなど、皮膚に直接触れる器具の消毒だけでなく、 皮膚に接する布についても規定されている
問題 34	3	薄めた消毒液は、すぐに使用できるように配置するのが適切で、 希釈してから長時間経過した液は使用しないようにする
問題 35	3	3の煮沸消毒は美容師法施行規則に規定されているように、沸騰後 2分以上の煮沸を行えば十分に消毒の目的を達成できる
問題 36	1	2は費用は多くかからないこと 3は消毒を行う際に人畜に無害であること 4は消毒する物件を損じないこと
問題 37	4	1は美容師法施行規則に定められている消毒法の中から適当な消毒法を選ぶ 2は消毒薬は希釈するとしだいに分解したり、効力が弱まってくるため長い間 保存した後使用するのは適当ではない 3は手指や皮膚を消毒するには、刺激性の弱い消毒薬を選ぶ

問題 38	1	紫外線消毒は深部や陰の部分には作用しない
問題 39	2	1は芽胞は熱に対して強い抵抗性があるため煮沸消毒では死滅しない 3は炭酸ナトリウムを1～2%の割合で加えると殺菌力を増し、さび止め効果もある 4は蒸気消毒は80℃を超える湿熱に10分以上、煮沸消毒では沸騰後2分間以上となっているが、消毒効果は高い
問題 40	4	すぐれた消毒法の条件には、必要であれば、表面のみでなく、内部をも消毒し費用も多くかからないこと
問題 41	1	2は皮膚に接する器具、布片類の消毒は、美容師法施行規則に定められている方法から選ぶ 3は消毒薬の使用液は一度に必要な量だけつくる。希釈した消毒薬はしだいに分解したり、効力が弱まる 4は被消毒物件の性質に応じた消毒薬や方法を選ぶ
問題 42	4	紫外線消毒は、プラスチック製品でつくられたブラシやくしの消毒に適しているが、消毒しようとするものの陰の部分にはほとんど作用しない
問題 43	3	1は両性界面活性剤は、結核菌に対する効力があります 2は逆性石けんは、普通の石けんと荷電が逆のため混合して使うと効果がなくなる 4はエタノールは、蒸発しやすいので、長時間作用させることは難しく、濃度変化を起こしやすい
問題 44	3	皮膚に接する器具のうち、血液が付着しているものやその疑いのあるもの以外のものに係る消毒方法は、 ① エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ② 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 45	1	① エタノールが76.9%～81.4%以下である水溶液中に10分間以上浸す方法。 ② 沸騰後2分間以上煮沸する方法。 ③ 次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法。 以上の3項目が血液の付着した器具の消毒である
問題 46	1	Cのグルコン酸クロルヘキシジンは石けん分が混合すると殺菌力が低下する。 dの逆性石けんや両性界面活性剤は無色無臭である。
問題 47	2	aの血液の付着した次亜塩素酸ナトリウム濃度は0.1% dの逆性石けん濃度は0.1%（血液の付着のときは使えない。）
問題 48	4	bカミソリと血液の付着したもの、あるいはその疑いのあるものは、10分間以上浸すこと、ガーゼや脱脂綿に含ませて清拭するという2種類の方法が規定されている。 美容所においてエタノールで清拭すれば実用上は安全と考えてよいのは、「カミソリ以外の血液の付着していない器具」であり、「カミソリを含めてすべての器具」ではない。
問題 49	1	②エタノールを保存する際には、揮発性が強いので、密栓する。 ③ 逆性せっけんは無色無臭で毒性も弱い。 ④グルコン酸クロルヘキシジンはプラスチック・ゴムを劣化させない。
問題 50	2	②煮沸があり、かみそり及びカミソリ以外のきぐで血液が付着しているもの、またはその疑いのあるものの消毒に使用できる。